

参加体験型の実践教育を主体に 受講者の気づきと理解を促す



全国7ヵ所にあるHondaの交通教育センター（P27参照）では社内外の指導者養成や、企業・団体、学校、個人のお客様に参加体験型の実践教育による安全運転への気づきと理解を促すための教育を行っています。今年は約9万人（10月末現在）の方にご利用いただきました。

企業・団体などのニーズに合わせた 教育プログラムをオーダーメイドで提供

企業・団体向けには、業務内容や安全管理の実態に応じたプログラムを提供しています。例えば、交通教育センターレインボー埼玉では生活クラブ連合会（生活クラブ事業連合生活協同組合連合会）の新人職員を対象にした安全運転研修を実施しています。参加した新人職員はクランクやS字コースを走行する車両感覚訓練などを通じて、業務で使用するトラックの運転特性と安全運転技術を学びました。同連合会は「新人の段階から、安全に対する基本的な考え方と業務に必要な運転技術を身につけてもらうことができる」と評価しています。



交通教育センターレインボー埼玉での生活クラブ連合会の新人を対象にした安全運転研修

交通教育センターレインボー埼玉の 研修コース拡張

今年は交通教育センターレインボー埼玉に新コースが完成しました。新コースには信号機のある交差点や一時停止標識のある交差点などが設けられるなど、より一般道路の状況に近い法規走行訓練も可能になっています。既存のコースと合わせ、お客様の幅広いニーズに応えられるようになりました。



4月に完成した交通教育センターレインボー埼玉の新コース

企業・団体における交通安全活動の 情報交換を行う場づくり

交通教育センターは企業・団体の交通安全推進担当者様の情報交換の場も提供しています。今年は、交通教育センターレインボー埼玉・和光が「2015トラフィック セーフティ・フォーラムin埼玉」を開催。「職場内の意識と行動で安全・安心な風土の確立」をテーマに、カンダホールディングス（株）や（株）ライドオン・エクスプレスの活動事例が紹介されたほか、自動車安全運転センター安全運転中央研修所の太田耕平氏による「安全に対する意識を高め、安全運轉行動を実践させるための方法」についての講演が行われました。



トラフィック セーフティ・フォーラムin埼玉（写真は2014年）

Hondaのインストラクターの 指導力向上と均質化をめざす

Hondaのインストラクターの指導力ならびに運転技術の向上を図る場と機会として、日本および世界に通用するインストラクターの育成を目的に「セーフティジャパンインストラクター競技大会」を1997年から開催しています。16回目となる今年は、国内の交通教育センターや事業所、海外9カ国からインストラクター67名が選手として参加。事業所ごとの競技ではありますが、大会中は国内外の選手は混成グループを組み、言葉の壁を乗り越え、一体となって二輪・四輪部門の各競技に臨みました。また、運転スキルだけでなく、指導者としての幅広い知識や指導力を向上するため、二輪・四輪の実技を交えた「実技指導力審査」（海外選手は「筆記レポート」）も行いました。



第16回セーフティジャパンインストラクター競技大会